



大向一輝

Ikki Ohmukai

着眼の早さと俊敏な開発力が勝負を分ける

Webサービスとそれを取りまくソフトウェアツールはきわめて競争が激しい。RSSリーダー／プログラマーのglucoseは、gooブログ向けにカスタマイズされたgoo RSSリーダーとあわせて、50万ダウンロード以上もの実績がある。glucoseが成功したのはなぜか？ その開発の舞台裏を覗いてみた。

Ikki Ohmukai

コミュニケーションを研究テーマとしている大向一輝氏（国立情報学研究所実証研究センター助手）は、学術的に関心が集まっているセマンティックWebを題材として次の研究課題を考えていた。

セマンティックWebは、コンテンツに要約情報（メタデータ）を含むタグを付けることによって、Web全体をデータベースとして取り扱い、解析や加工を加えて利用者に役立つサービスを提供しようというものだ。しかし、莫大なWebコンテンツにいったい誰がタグを付けるのだろうか。どのようにすれば、世界に普及するようになるのかに難しさを感じていた。

RSSリーダー／プログラマーとしての「glucose」開発物語はここから始まるのである。

セマンティックWeb——そのコンテンツにタグを付けるのは誰なのか？

それより少し前に、大向氏は大所帯で運営がたいへんな母校同志社大学の研究室に、所属学生50人でWeb日記を使って研究の進捗を報告したらどうかと勧めたことがあった。まだブログという言葉がなかった2002年のころである。ときどき様子を見ると、50人がいっせいに日記を

書くので、同じ事柄でも学生によって書くことが違う。そのうち、「A君は～だと言うけど、僕はこう考える」というような書き込みも見られるようになった。学生がそれぞれ書いていても、通して見るとコミュニケーションが生じていることが、おもしろいと思った。

2002年後半になると、米国ではWeb日記と似ているブログが流行していた。ブログではRSSによって、タグ付けされたタイトル、時間、本文が配信されていた。原始的かもしれないが、ブログ、RSS、ツールを組み合わせれば、ユーザーは簡単にセマンティックWebのタグ付きコンテンツを作成できる。それを収集して処理できるのではないか。それだけ手軽なら、セマンティックWebは普及するかもしれない。

そこで、システムの具体的な形は漠然としていたが、まず、

「セマンティックWeb+Weblog」→「semblog」というプロジェクトの名前を考えたのである。

そこまできて、2002年度の未踏ソフトウェア創造事業の仲間であった安達真氏（早稲田大学理工工学部）のことが頭に浮かんだ。安達氏は「glucose」というニュースリーダーで要約を表示できるようにしていた。似ていることをして

いるのではないか。glucoseはRSSリーダーにできるのか？

驚いたことに、glucoseの中身はすべてRSSになっていた。新聞社などのコンテンツをいったん全部RSSに変換して扱っていたのだ。そのプログラムを改造すれば、ユーザーはRSSを取り込める。そこで安達氏と共同で、glucoseの改造を主軸とするsemblogプロジェクトで、2003年度の「未踏」に応募することにしたのだ。

嵐のようなバージョンアップ、あんなことはもうできない

幸運にも採択が決まり、glucoseを改造したRSSリーダーを公開したのは2003年7月だ。フリーソフトウェアとしては日本では最初になった。しかし、RSSにはバージョンがいくつかあり、規約外のRSSを出すサイトもあったため、どのサイトのRSSでも読めるようになるまでに激しいバージョンアップが繰り返されることになった。積極的なユーザーが指摘してくれる問題点をどんどん修正していき、ようやく安心して使えるようになったのである。

2003年なかばになると、ブログは新らしもの好きのあいだでコミュニケーション手段として普及するとともに、雑誌などの紹介を通して

glucoseも少しずつ知られるようになっていった。ブログは情報の発信を容易にしてくれるツールだが、ブログの書き手は大量に読む人でもある。そこで、glucoseにはブログライター機能が追加された。そこには、たんなるRSSリーダーではなく、ブロガーの活動をサポートするツールをつくろうという意識があった。

「未踏」のプロジェクトが終わったあとの2004年5月、NTTレゾナントからglucoseをgooブログ向けにカスタマイズしないかと声をかけられた。個人では契約ができないので、大急ぎで会社を設立した。自分たちの名前を製品の開発者として明示してよいことが嬉しかった。

カスタマイズした「goo RSSリーダー」では、ブログライターの機能を削除し、ユーザーインターフェイスを大幅に変更していったが、それまでとは品質基準に雲泥の違いがあった。実際、配布を始めたソフトウェアに問題があると、「使えない」と容赦なくブログで叩かれた。胸の痛む思いだったが、勉強になった。

ハックの対象は、コンピュータではなく人の気持ちだ

goo RSSリーダーの開発に忙しくてしばらくglucoseから離れていた大向氏と安達氏だが、ずっと使い続けてくれているユーザーには報いたいし、いま盛り上がっているブログ界に参加したいという思いもある。やりたかったことを、glucose 2を通してどんどん示していきたい。

大向氏の研究は、人がデータにつけたタグを活用することだ。数年前まで、普通の人がコンテンツにタグをつけるようになることなど夢にも思わなかった。しかし、利用者に利益が見える仕組みがあれば可能なのだ。ハックの対象は、コンピュータではなく人の気持ちだ。

DATA

国立情報学研究所実証研究センター助手。セマンティックWeb、コミュニケーションをテーマに研究。

http://research.nii.ac.jp/i2k/official/content_j.html

